

経済指標

1 経済指標で見る「地域経済情勢」

◆ 日本経済(内閣府「月例経済報告」[2017年7月]) ◆

景気は、緩やかな回復基調が続いている

個人消費

- ・緩やかに持ち直している(6月に判断引き上げ)

企業活動

- ・生産は持ち直している(変更なし)
- ・輸出は持ち直している(変更なし)
- ・業況判断は改善している(4月に判断引き上げ)
- ・設備投資は持ち直している(6月に判断引き上げ) ※ () 内は、4月以降の判断変化

◆ 和歌山県経済 ◆

個人消費、企業活動ともに一部で持ち直しの動きが鮮明になるも、弱さも見られ、和歌山県経済は持ち直しをうかがう状況が続いている

個人消費

- ・新車販売台数(6月)は8か月連続で前年を上回った
- ・百貨店・スーパー販売額(6月、全店)は7か月連続で前年を下回った。ただし、化粧品、宝石・時計等の「その他の商品」は2か月連続で前年を上回った

企業活動

- ・鉱工業生産指数(5月、季節調整値)は4か月ぶりに下降するも、高水準
- ・TDB景気DI(6月)は2か月連続で下降
- ・有効求人倍率(6月)は3か月連続で上昇。有効求人数は過去最高値を更新

◆ 大阪府経済 ◆

企業活動の一部に弱さも見られるが
大阪府経済は緩やかに回復している

個人消費

- ・百貨店・スーパー販売額(6月、全店)は3か月連続で前年を上回った
- ・新車販売台数(6月)は11か月連続で前年を上回った

企業活動

- ・TDB景気DI(6月)は小幅上昇。見通し良好
- ・鉱工業生産指数(5月、季節調整値)は前月から8.6ポイント下降
- ・公共工事請負金額(6月)は8か月連続で前年を下回った

経済指標

2 経済指標で見る「和歌山県経済」

個人消費、企業活動ともに一部で持ち直しの動きが鮮明になるも、弱さも見られ、和歌山県経済は持ち直しをうかがう状況が続いている

和歌山県に関する経済指標の概況（6月指標を中心に）

《個人消費》

- 新車販売台数（6月）は8か月連続で前年を上回った。
- 百貨店・スーパー販売額（6月、全店）は7か月連続で前年を下回った。
ただし、化粧品、宝石・時計等の「その他の商品」は2か月連続で前年を上回る。
- 新設住宅着工戸数（1～6月累計）は前年比8.8%の増加。

《企業活動》

- 鉱工業生産指数（5月、季節調整値）は4か月ぶりに下降するも、高水準。
- 公共工事請負金額（6月）は、3か月連続で前年を下回った。
- TDB景気DI（6月）は2か月連続で下降。

《その他》

- 消費者物価指数（6月、和歌山市）は、コアコアCPIが2か月連続の横ばい。
- 有効求人倍率（6月）は3か月連続で上昇。有効求人数は過去最高値を更新。

和歌山県の経済指標の概況変化(前年同月との比較 ※一部は前月比較)

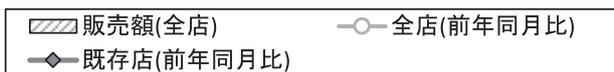
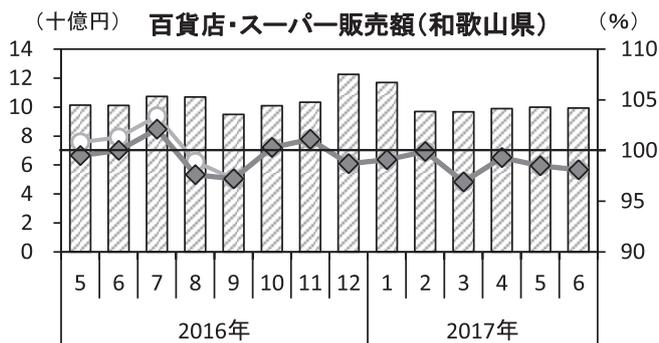
		2016年						2017年							
		5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
個人消費	百貨店・スーパー販売額(全店)	○	○	○	●	●	○	○	●	●	●	●	●	●	●
	新車販売台数(登録車、軽自動車[乗用]含む)	●	●	●	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○
	新設住宅着工戸数	●	○	○	●	○	○	●	●	○	○	○	○	○	●
	家計消費支出(除く住居等、二人以上の世帯)	●	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
企業活動	鉱工業生産指数 ※前月比	●	○	●	○	●	●	○	●	●	○	○	○	●	
	公共工事請負金額	●	○	○	○	○	○	●	●	●	○	○	●	●	●
	TDB景気DI ※前月比	○	●	●	○	●	○	○	●	●	○	●	○	●	●
物価	消費者物価(コアコアCPI、和歌山市) ※前月比	○	-	●	-	●	○	●	●	●	-	○	-	-	
雇用	有効求人倍率	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

(注) ○：上昇(増加) -：横ばい ●：下降(減少)、空白はデータ未発表

百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパー販売額（全店、6月）は7か月連続で前年を下回った。5月の値ながら、「飲食料品」の販売額が前年を下回り、「婦人・子供服・洋品」は6か月連続で前年を下回っている。その一方で、化粧品、宝石・時計等の「その他の商品」については2か月連続で前年を上回り、再び増加傾向にある。

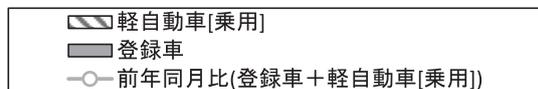
県内では、ドラッグストア等の専門量販店の店舗数が増加しており、競争が激化している。この点が百貨店・スーパー販売額減少の一要因になっていると考えられる。



(資料)経済産業省「商業動態統計調査」

新車販売台数

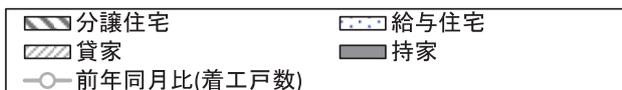
新車販売台数（軽自動車[乗用]含む、6月）は、登録車が前年比16.7%の増加となった。6月の登録台数が2,000台を上回るのは、エコカー補助金効果が見られた2012年以来5年ぶり。軽自動車（乗用）についても、前年比22.7%増となった。軽自動車は軽自動車税の増税や大手メーカーによる燃費不正問題等の影響で長らく販売台数が低迷していたが、持ち直しの動きが鮮明になっている。



(資料)一般社団法人 全国軽自動車協会連合会ウェブサイトならびに和歌山県自動車販売協会資料

新設住宅着工戸数

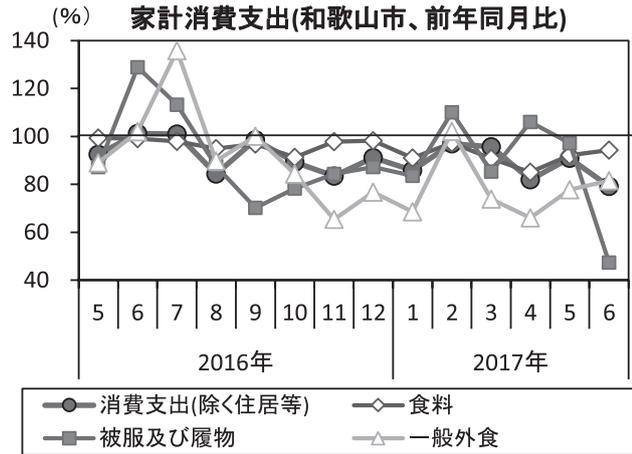
新設住宅着工戸数（6月）は、6か月ぶりに前年を下回った。1～6月累計の着工戸数は、「貸家」の着工戸数増加もあり、前年比8.8%増となっている。ただし、「分譲住宅」については、前年比30.8%減となっている。「持家」は前年比2.3%増。



(資料)国土交通省「住宅着工統計」

家計消費支出

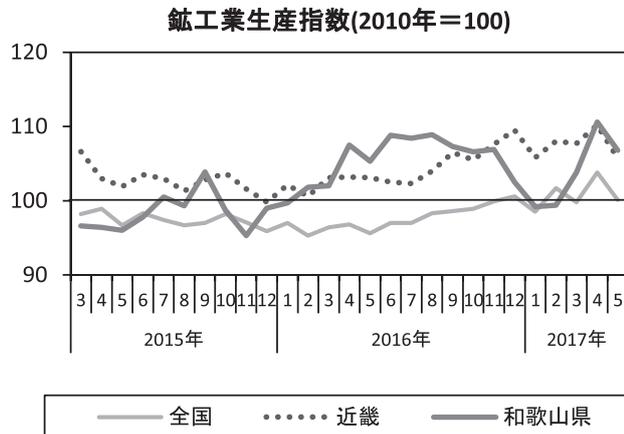
家計消費支出（除く住居等、6月）は、11か月連続で前年を下回った。前年比減少幅はやや拡大傾向にある。費目別では「被服及び履物」ならびに「一般外食」を含む「食料」への支出が前年を下回っており、特に「被服及び履物」は前年比52.7%減となっている。



(資料)総務省「家計調査」(二人以上の世帯)

鉱工業生産指数

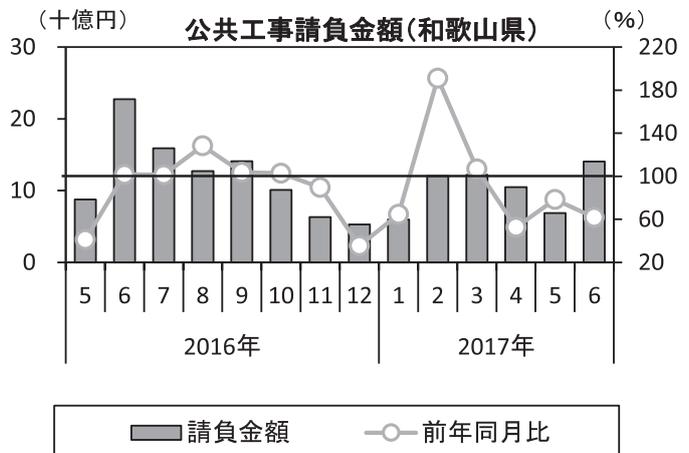
鉱工業生産指数（5月）は4か月ぶりに下降するも、比較的高い水準を維持した。業種別では、「鉄鋼」は依然として低調だが、「化学」、「機械」、「繊維」で高い水準を維持している。特に、繊維機械を中心とする生産用機械は4か月連続での上昇となった。



(資料)経済産業省「鉱工業指数」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」
和歌山県調査統計課ウェブサイト

公共工事請負金額

公共工事請負金額（6月）は、3か月連続で前年を下回った。前年比減少幅は、4月47.5%、5月21.6%、6月38.2%といずれも大きく、4~6月累計の請負金額は、前年比39.0%減となっている。地区別では、和歌山市を中心とした和歌山地区、岩出地区、新宮地区で大きく減少している。昨年度に大きな減少となっていた串本地区は増加した。

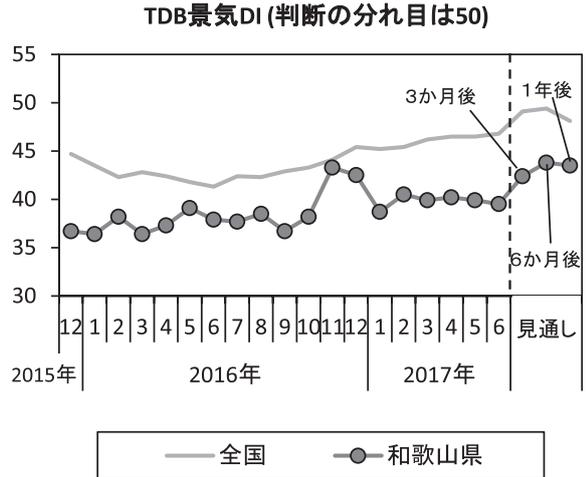


(資料)西日本建設業保証(株)「公共工事動向」

景況感 (TDB 景気DI)

TDB景気DIは、(株)帝国データバンクが月次で実施している景気動向調査から算出された景況感を表す値である。この値が50を超えると、現在の景気を「良い」とする事業者数が「悪い」とする事業者数を上回る。

6月の景気DIは2か月連続で下降。建設業、製造業、運輸業の景気DIは上昇したが、卸売業の下降が響いた。ただし、3か月後以降の見通しについては、運輸業、製造業等で景気DIがさらに上昇し、全体でも持ち直す模様。

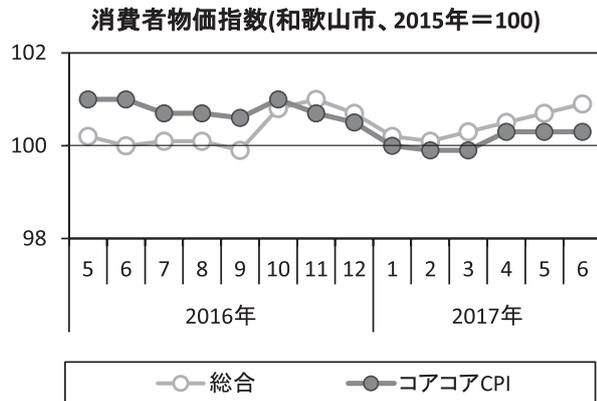


(資料) 株帝国データバンク

消費者物価指数

消費者物価指数(和歌山市、6月)は総合が4か月連続で上昇する一方、コアコアCPIは2か月連続で横ばいとなった。品目別では、電気代、ガス代等のエネルギー価格が上昇し、改正酒税法により安売りが規制されたビールも上昇した。

企業間でやりとりする物の価格(企業物価)は横ばいで推移していることから、今後の消費者物価指数については、横ばい圏での推移が予想される。

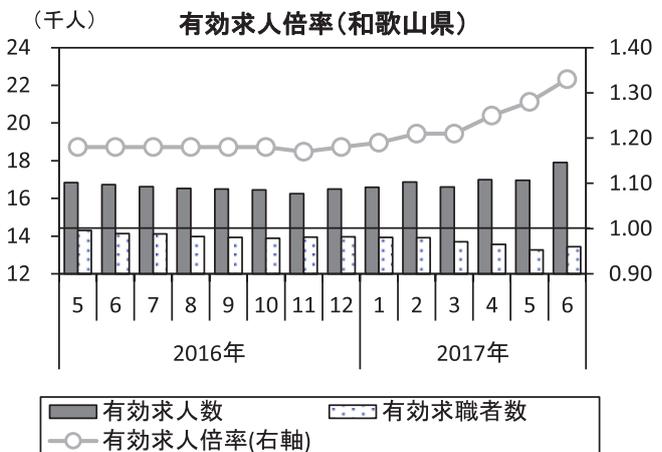


(注) コアコアCPIは食料(酒類を除く)及びエネルギーを除いた物価指数。
(資料) 総務省「消費者物価指数」

有効求人倍率

有効求人倍率(6月)は3か月連続で上昇し、1.33倍。1991年6月以来26年ぶりの高水準となっている。

製造業、運輸業、宿泊業、医療・福祉など幅広い業種で新規求人が増加し、有効求人数は調査開始(1963年)以降の最高値を更新した。また、これまで減少傾向にあった有効求職者数が増加に転じている。特に、転職希望者の新規求職申込が増加した。



(資料) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

経済指標

3 経済指標で見る「大阪府経済」

企業活動の一部に弱さも見られるが
大阪府経済は緩やかに回復している

大阪府に関する経済指標の概況（6月指標を中心に）

《個人消費》

- 百貨店・スーパー販売額（6月、全店）は3か月連続で前年を上回った。
- 新車販売台数（6月）は11か月連続で前年を上回った。
- 家計消費支出（除く住居等、6月）は4か月ぶりに前年を下回った。

《企業活動》

- TDB景気DI（6月）は小幅上昇。見通し良好。
- 鉱工業生産指数（5月、季節調整値）は前月から8.6ポイント下降。
- 公共工事請負金額（6月）は8か月連続で前年を下回った。

《その他》

- 消費者物価指数（6月、大阪市）は、総合、コアコアCPIともに下降。
- 有効求人倍率（6月）は1.58倍と高水準だが、充足率は低く、労働市場でのミスマッチが懸念される。

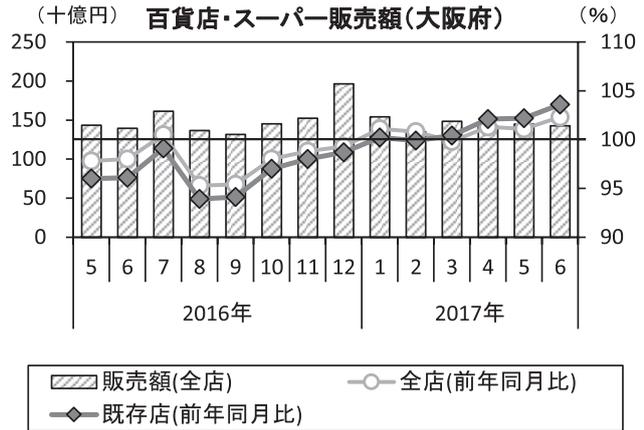
大阪府の経済指標の概況変化（前年同月との比較 ※一部は前月比較）

		2016年						2017年							
		5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
個人消費	百貨店・スーパー販売額(全店)	●	●	○	●	●	●	●	●	○	○	●	○	○	○
	新車販売台数(登録車、軽自動車[乗用]含む)	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	新設住宅着工戸数	○	●	○	●	●	○	●	○	○	●	○	●	●	●
	家計消費支出(除く住居等、二人以上の世帯)	●	○	○	●	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○
企業活動	鉱工業生産指数 ※前月比	●	●	○	○	●	○	○	○	●	○	●	○	●	
	公共工事請負金額	○	●	○	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●
	TDB景気DI ※前月比	●	●	○	●	○	○	○	○	○	-	○	○	●	○
物価	消費者物価(コアコアCPI、大阪市) ※前月比	●	●	●	-	○	○	-	●	●	-	●	○	○	●
雇用	有効求人倍率	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

(注) ○：上昇(増加) -：横ばい ●：下降(減少)、空白はデータ未発表

百貨店・スーパー販売額

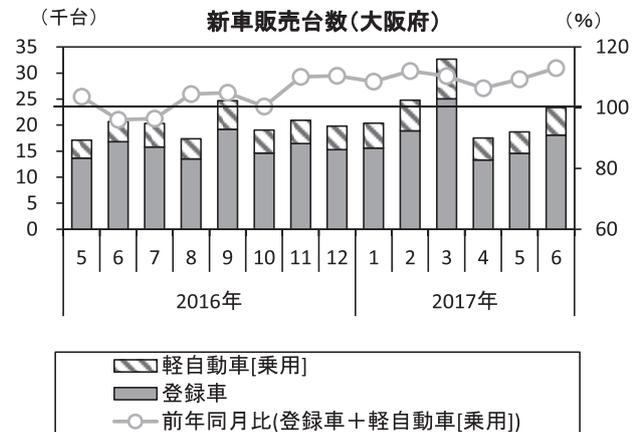
百貨店・スーパー販売額（全店、6月）は前年比2.3%の増加。販売額が前年を上回るのは3か月連続。5月の値ながら、品目別の販売額を見ると、「紳士服・洋品」、「婦人・子供服・洋品」は前年を下回る一方で、化粧品、宝石・時計等の「その他の商品」は前年比9.6%増、靴・かばん等の「身の回り品」は同0.9%増となった。訪日外国人客による免税品購入に加えて、株高に伴う資産効果により高額品の購入が伸びている。



(資料)経済産業省「商業動態統計調査」

新車販売台数

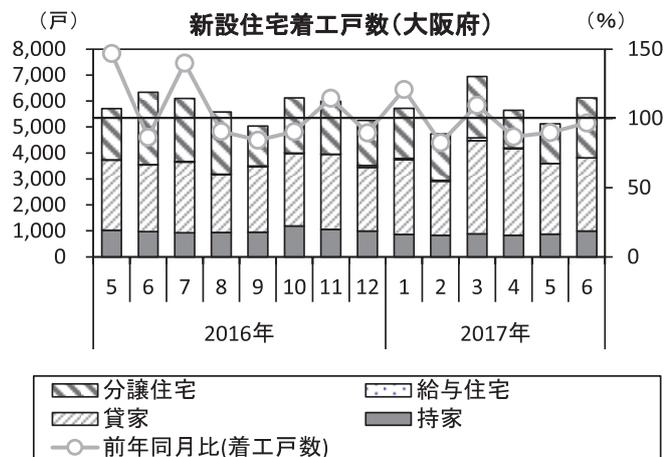
新車販売台数（軽自動車[乗用]含む、6月）は11か月連続で前年を上回った。軽自動車、登録車ともに販売台数が前年を上回っている。特に、登録車の販売台数18,096台は、エコカー補助金の効果が見られた2012年6月の17,558台を上回る高い水準となった。



(資料)一般社団法人 全国軽自動車協会連合会ウェブサイトならびに東京自動車販売協会「新車販売台数(登録車)」

新設住宅着工戸数

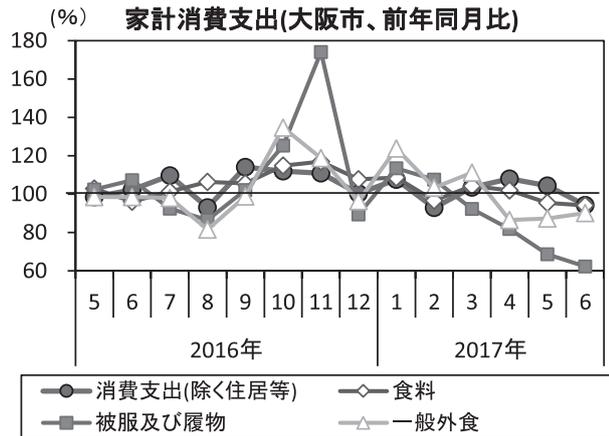
新設住宅着工戸数（6月）は、3か月連続で前年を下回った。大阪府の新設住宅着工戸数の多くを占める「分譲住宅」が5か月連続で前年を下回っていることが響いた。「分譲住宅」は、2016年後半以降、減少傾向となっている。



(資料)国土交通省「住宅着工統計」

家計消費支出

家計消費支出（除く住居等、6月）は4か月ぶりに前年を下回った。「一般外食」を含む「食料」、「被服及び履物」で支出額が減少した。特に、「被服及び履物」については、4か月連続で支出額が減少している。

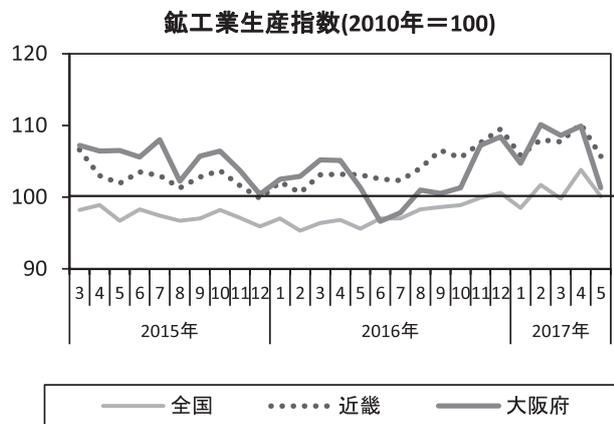


(資料)総務省「家計調査」(二人以上の世帯)

鉱工業生産指数

昨年後半以降、鉄鋼業、はん用・生産用・業務用機械工業、輸送機械等の生産指数が上昇し、全体としても持ち直しの動きが見られていたが、5月はこれらの業種の生産指数がいずれも下降となった。

ただし、後述する通り、府内製造業の景況感は底堅く、見通しも良好で、生産指数がさらに下降する可能性は低いと考えられる。

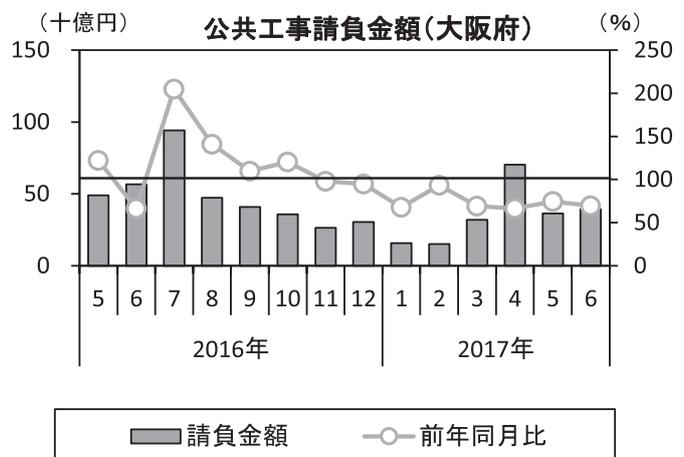


(資料)経済産業省「鉱工業指数」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」
大阪府「大阪の工業動向」

公共工事請負金額

公共工事請負金額（6月）は、前年比30.3%減となった。前年を下回るのは8か月連続。4～6月累計の請負金額についても、前年比30.9%減となっている。

発注者別では、独立行政法人、府発注の工事請負金額が大きく減少している。

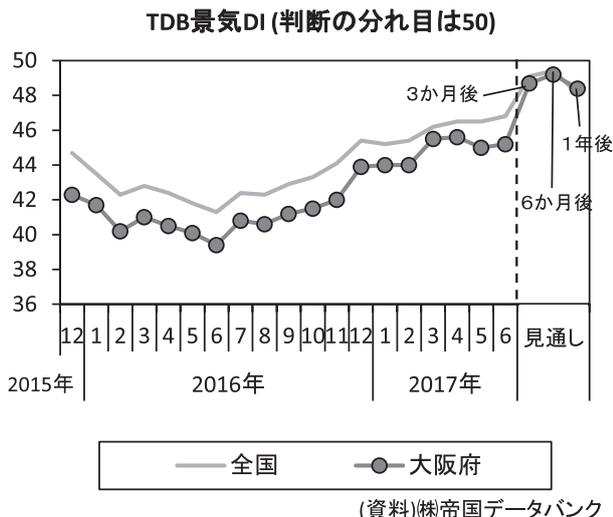


(資料)西日本建設業保証㈱「公共工事動向」

景況感 (TDB 景気DI)

TDB景気DIは、(株)帝国データバンクが月次で実施している景気動向調査から算出された景況感を表す値である。この値が50を超えると、現在の景気を「良い」とする事業者数が「悪い」とする事業者数を上回る。

景気DI (6月) は前月から0.2ポイントの小幅上昇。昨年9月から本年3月にかけて、景気DIは持ち直しの動きが見られたが、その後は、足踏み傾向にある。ただし、3か月後以降の見通しは良好で、卸売業、小売業、製造業をはじめ、多くの業種で景気DIは上昇する模様。

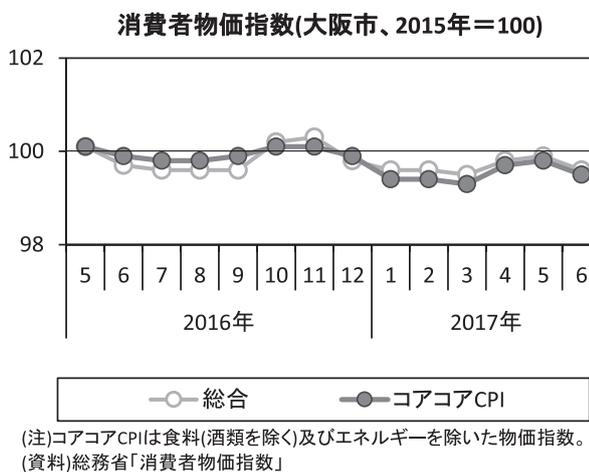


消費者物価指数

消費者物価指数 (大阪市、6月) は総合及びコアコアCPIがともに前月から下降し、昨年6月と比べても低い水準となっている。

電気代、ガス代等のエネルギー価格が上昇し、改正酒税法により安売りが規制されたビールなどの酒類も上昇した。その一方で、野菜、家庭用・教養娯楽用耐久財の価格は下落傾向にある。

企業間でやりとりする物の価格 (企業物価) は横ばいで推移していることから、今後の消費者物価指数についても、横ばい圏での推移が予想される。



有効求人倍率

有効求人倍率 (6月) は4か月連続で上昇し、1.58倍となった。医療・福祉、運輸業、製造業で新規求人数が増加している。その一方で、新規求職者数は減少しており、「保安」、「建設・採掘」、「介護関連」の求人については、人材確保が難しい状況となっている。

